



校長室だより

令和5年度
12月22日
NO. 36

2学期間 ご支援ご協力ありがとうございました



体育館、北舎を囲っていた外幕も外れ、日の光が、温かく教室に差し込むようになりました。外幕の下からは、きれいに塗装され、生まれ変わった外壁が姿を現し、150周年記念を祝福するかのようです。現場の方と話をすることがありましたが、これだけ大きな壁を全て塗り直すのに、足場を組み、汚れを落とし、全て塗り替え、足場を外し…、と大変な作業であったと聞き、こうした方々のおかげもあり、新しく変わっていくのを感じます。

少し前にテレビで「日本式の教育」を実践しているエジプトの取り組みを放送していました。日本の学校では当たり前のように行われている学級会や掃除、日直といった「特活（特別活動）」を中心とする教育が行われるようになり、2018年には新設EJS（エジプト日本学校）が、



35校に拡大したそうです。これまでのエジプトは、学力偏重の詰め込み型、受け身型の教育だったそうですが、（昔の日本のようですが…）日本式教育を行った学校では、学力だけでなく主体性や協調性、社会性も身につけてきたそうです。そして家でも進んで掃除をするようになり、ごみのポイ捨てを子供が親に注意するようにもなったと言います。

秦梨小ではこの2学期、多くの行事が行われましたが、行事も日本の独特のものと言われる。フランスの学校に行っていた人から、「運動会も卒業式もなかった」という話を聞いたことがあります。1年が終わると、何の区切りもなく卒業・進級していくのだそうです。これだけ数多くの行事があるのは日本だけなのかもしれません。秦梨でも、（大変な様子も見られますが）行事を行ったり終えたりした子供たちは多くのことを学び、楽しそうであり、またその姿は強く大きく成長したように、感じられます。日本が「勉強」だけでなく、「特活」や「行事」にも力を入れているのは、教育基本法で教育の目的が「人格の形成」であることによります。（他国では学校は勉強をするところという考えが中心です）

そんな日本の教育で、現在よく言われるのは「主体的」であることです。授業の形も先生が中心になって進めるものから、子供が主体となるものへの変換が求められています。行事も同じで、言われてやるのではなく、子供が自分で考えて、行動できるようになることが求められます。秦梨でも『学び合い』で、子供同士、教え合う、相談し合う姿が、多くの場でみられるようになりました。もちろん、これは子供や学校だけでなく、保護者の方や地域の方のご支援やご協力があったおかげであり、感謝しております。

「主体的」である一つの判断基準が「楽しい」ことであると考えます。「楽しい」ことは、子供たちの力を引き出し、成長させます。終業式では、この冬休みに、ぜひ趣味や特技等「楽しい」ことをするよう、おうちの人と楽しい時を過ごすよう伝えました。3学期も、いろいろなことに自分から進んで取り組み、いろいろなことが分かたり、できたりして、新しい年、新しい自分になれる、そんな「楽しい」学校になることを望んでいます。